

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100413		
法人名	社会福祉法人 福聚会		
事業所名	グループホーム 宝珠の郷【桜ユニット】		
所在地	福井市内山梨子町3-46		
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 18 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 2 年 10 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が穏やかに、そして心豊かに生活していただけるよう、職員はどんなときも、入居者様と向き合い、喜び合い、支え合い、共感しあう、「家族のようなつながり」を求め続けています。
また今年度は、入居者様の歯や口の中の健康を保っていただくため、「口腔ケア」の実践に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は山と田園が広がる自然豊かな環境に立地している。近隣の民家と変わらない木造2階建てで、隣接して同法人のデイサービスセンター、特別養護老人ホーム、在宅介護支援センターが横並びに建っている。開設9年が経過した中で、職員の離職が少なく、特別養護老人ホームやデイサービスセンターへの人事異動もある。利用者にとって心安らぐ生活環境の実現ができている。また、家族から入居時に生活歴など詳しく聞き取り、特別養護老人ホームとの連携を含む重度化・終末期への対応、隣接施設や地域とのイベントや繋がりを重視し、職員間で適切なケアに取り組み、着実に積み重ねている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに楽しみ助け合い皆が温かい気持ちになれる施設」を基本方針とし、毎朝の申し送り時に「理念」と併せ唱和し、実践につなげている。	事業所設立時の基本理念、職員理念、サービス方針を毎朝唱和している。職員は人事考課の個別目標を設定し、年2回の面談を通して達成状況の確認を行い質の向上に努めている。家族に対しても理念を説明しケアにつなげていく体制を整えている。	平成23年4月に開設し9年目を迎えることから、事業所の基本方針や職員理念、サービス方針等、開設当初に作られた「思い」というものを再度職員全員に解説することが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年明けまでは、法人が主催する月1回のお説教に加え、小学校の運動会や地域の体育大会及び文化祭に参加し、地域との交流を意識した取り組みに努めてきた。	地域の文化祭、体育大会には例年参加し、老人会やサロンへ参加したり、小学校との交流に加え、法人主催の説教、夏祭りも実施している。定期的な外出もレクリエーション委員会を開き、積極的に行っている。回覧板や広報誌で地域への周知にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年実施されなかったが、毎年地区の体育大会に参加し、入所者様や職員が地元の学生ボランティアとふれあい競技に興じるなど、地域の人々に向けて認知症への理解を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様のご家族や地域の福祉委員などと構成する運営推進委員会において意見を交換し、サービス向上に活かしている。	2か月に1回開催。家族、元民生委員、地区社会福祉協議会、公民館長、地域包括支援センター職員、ボランティアが出席している。利用者状況、行事、家族アンケート、利用者からの意見や希望を報告と共に、地域活動情報を含め、参加者から意見を聞きサービス向上に繋げている。	運営推進会議の内容については、参加できなかった家族へ、事業所・会議内容の理解のため、文書化し配布することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に包括支援センター職員に出席してもらい、困難事例に対しての助言をいただいたり、地域内の情報を伺ったりするなど協力関係を築いている。	市との連携は日常的に行っている。運営推進会議での情報交換や施設長や管理者が市職員や他施設との情報交換の場を設けるなど積極的な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止にかかる委員会を定期的開催しているほか、毎月末に事業所全職員により、入所者様一人ひとりのケアの方向性を話し合うなど、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束予防における内外の研修会に参加し、身体拘束廃止委員を設置、拘束予防マニュアルを整備している。定期的ミーティングや必要時には対策を検討し拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。防犯のため夜間施錠しているが、日中は施錠することなく自由な生活を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止を徹底するため、上記と関連し、法人全職員を対象とする研修を年2回開催し意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	上記6. 7と関連し、入所者様の権利擁護に関する理解を深めている。具体的に、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会は持てなかったが、施設長から「人の尊厳」について講義を受けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書・重要事項説明書に則り、入所者様やご家族様へ十分に説明を行っている。丁寧な対応に心掛けていることにより、納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来苑時のご家族様とのコミュニケーション、ご家族様アンケートによる声などから、改善事項を見出し対応している。	年1回家族アンケートを実施する事で運営やケアについての意見聴取を行うとともに、日々の業務の中で家族面会時の機会を活かし、得た気付きの情報を申し送りノートに記載して職員間で共有できるよう努めている。意見・課題については、集計結果を公表している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回のチーフ会議、年に2回の面談時などに職員の声に耳を傾ける機会を設けるとともに、管理者や主任が積極的に声をかけるなどし意見を聞き、反映事項を増やしている。	職員からの提案は多く、出された意見を職員間で協議し検討している。管理者も職員の意見に耳を傾け、それらの意見を検討し現場に返している。職員が想いを溜めないよう積極的に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や目標管理を運用し、職員の能力や態度、頑張った成果を認めるなど、評価する環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内だけではなく、法人外研修への参加を積極的に推奨している。また、研修費用の助成に加え、介護福祉士以外の研修については、研修日を全て公務扱いとするなどの取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やオンラインを通して同業者と接する機会はあるが、勉強会や相互訪問等に発展した交流は現状のところ皆無である。今後の検討項目としたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ずご本人との面会を行い、心身の状況把握に努め、サービス提供の内容に活かしている。また、担当ケアマネとの引継ぎを十分にやり、可能な限りご本人の望む暮らしを提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはご家族様、可能であればご本人に来所してもらい、事業所の雰囲気を感じていただいたうえで要望等を伺うなど、早い段階からの関係構築を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来所時の面談により、ご本人やご家族の想いや希望を十分に伺い、より良い支援の方向性を見出している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日々の調理や掃除など、生活支援を通して、入所者様から多くの暮らしの知恵を授かるなど、支えあう関係づくりに注力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等にご家族様と、入居者様への支援の方向性を確認する機会を設けるなど、共に支えあう関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族に加え、近所馴染みの方からの面会、暑中見舞いや年賀状のやり取りなど、これまで通りの関係を維持できるよう関わっている。	入居前の訪問や細かなアセスメントにより、大切にしている人や環境を把握し、家族の協力も得る事で帰宅、墓参り、面会、年賀状、携帯電話の利用等、家族や友人との関係づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	両ユニットの自由な往来を可能としているほか、入所者全員が会し交流する機会を設けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の担当者やケアマネへの情報提供を丁寧に行っている。また、併設施設へ入所された場合には、職員によるご本人への面会やご家族へのフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活をする中でご利用者様と関わりを持つ時間を設け、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。また、定期的にあセスメントシートを作成し、本人の意向に基づき、ケア内容の検討を都度行っている。	入居前や今の生活を通して、一人ひとりの細かい生活歴を把握し共有する事に努めている。明確な意思表示ができなくなる利用者が多くなってきたが、本人が不安なく生活できるよう、思いを整理し、家族の協力を得ながらケアに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人に面会し、ヒヤリングを行うほか、ご家族や担当ケアマネから情報を収集するなど、生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの状態をケア記録表や申し送りノートに記録し、ケアに関わる細目な情報の把握、共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月実施するモニタリングから作成するアセスメントシートにより職員間で話し合い、意見などを反映したプランとなるよう取り組んでいる。	日々の伝達や毎月のケア会議、3か月毎の家族、計画担当者、管理者、必要に応じて看護師、管理栄養士、医師も参加する担当者会議でケアプランの検討を行っている。利用者の思いを代弁し計画に反映できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護支援計画書を記録したり、日誌や申し送りノートに気づきを記入したり、ご本人の言葉を書き取ったりするなどして考察を加え、介護計画の見直しに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の都合に応じて、定期受診や個別による買い物や散髪、季節ごとの外出行事を企画するなど、柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	衣服や日用品の購入など、できるだけ地域の衣料品店やスーパーを利用するよう心がけている。馴染みの関係を築くことにより、安心して暮らせる環境づくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続を基本としつつ、希望に応じ、近医への転院も可能としている。定期受診については、ご家族の付き添いを原則とするものの、緊急時等は職員による対応も可能である。	希望するかかりつけ医に受診している。基本的に家族が受診同行するが、職員対応もある。職員が対応した際は家族へ報告している。また定期受診であったり、緊急時には職員が同行し結果を書面で家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はないが、併設の特養の看護師に相談・指示を仰ぐなど連携を密にしている。また、夜間はオンコール体制を整え緊急時に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を提供している。また、ご家族、主治医、担当看護師と連携を密にとりながら退院後の受け入れがスムーズに行えるよう努めている。退院前のカンファレンスにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約の際に、重度化した場合や終末期のケアについて口頭での説明を行っている。入院時には病棟カンファレンスに出席し、ご本人やご家族、病院関係者と話し合いのうえ方針を決定している。	開設後、一度だけ往診体制と家族の協力が整い看取りを行った。今回のケースを振り返り、重度化や終末期の支援方法のマニュアルを今年度中に作成する予定である。原則として、終末期のケアを行わないことは入居前契約時に説明し同意を得ている。法人内の特別養護老人ホームや医療機関への支援に不安が生じない対応を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、配架している。また、法人全体の勉強会に参加し、緊急時の対応力向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、配架している。また、年2回全体の避難訓練を実施するほか、地区内の避難訓練に参加し、地域とのつながりを築いている。なお、非常時の備蓄品も確保している。	今年は消防署員を招き、火災、地震、土砂災害想定避難訓練を、夜間想定も含めて実施。緊急連絡網やマニュアルも整備している。緊急時の水、非常食、備品は、事業所と法人において十分備蓄している。地区の防災訓練に地域住民と協働で参加している。	特に夜間に有事が起こる可能性を考えると職員の不安も大きいと予想し、全員のイメージ化と行動と役割の周知、応援体制のあり方、地域住民の参加体制も視野に入れた訓練等を検討し実施することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ訪室の際には必ずノックを厳守し、ご本人より入室の許可を得るなど、プライバシーの配慮に努めている。言葉づかいに関しては職員同士が都度注意し合っている。	外部講師による研修会を実施し、職員一人ひとりがケアに反映している。言葉遣いには職員同士も注意し合っている。利用者、家族の希望に添えるよう同性介助原則で対応を行い、個人情報書類の保管は、他者が見られないよう各ユニット別に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望に応じ、活動に使用する物品等を個人用に準備している。また、日々の関わりの中でご本人の希望や想いを取り入れ、外出行事や外食行事、レク活動を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で決まり事はあるが、1人ひとりが自己選択できるように声かけや環境づくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご要望に応じ、理容室などを利用している。着替えは自身のペースに任せるなど、その日その日のご本人好みのおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	どのような食事を食べたいかを伺いながらメニューに取り入れている。また、盛り付けにも配慮し見た目でも楽しんでいただいている。また、日々ご利用者と副菜や汁物など一緒に作る時間を設けている。茶碗拭きなど後片付けも一緒に行っている。	事業所内に菜園を作り、家庭菜園や地域からの差し入れにより、旬の食材を調理している。利用者も野菜切りや片づけを手伝っている。季節に応じた行事食、月2回のおやつ作りも行い、口腔ケアへの取り組みも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立を作成している。食事摂取量、水分飲用量を記録し、健康管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや義歯の洗浄、歯磨きを日課とし、個々に応じた口腔ケアを行っている。義歯は週に1回ポリドント洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合わせた排泄介助を行っている。また、羞恥心に配慮し、耳元での声かけなど、さりげないケアに努めている。	24時間シートを活用し利用者個人の排泄パターンを把握・共有する事で、事前の声かけによるトイレでの排泄を促せたり、利用者自身が自然でさりげないトイレ排泄ができるように支援している。現在、おむつの使用は行っていない。職員が協力し原則同性介助である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳の提供に加え、排便困難時には食物繊維を提供し、細目な水分補給に努めている。1日2回、ホーム内にて歩行訓練や軽体操を行い、便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に6日入浴日を設け、個々に合わせて、臨機応変に対応している。入浴場面では誘導から入浴まで職員が1対1で対応し、ゆったりと落ち着いた気持ちで入浴できるよう努めている。	利用者の希望にもよるが原則的に午前中の中の入浴支援を実施。同性介助を原則に、準備から入浴、休むまで一人の職員が対応している。拒否がある場合は無理強いをせず、本人に合わせた翌日支援にしている。柚子湯も提供し季節を感じてもらおう支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホームでの日課は決まっているが、それぞれの生活リズムや本人の希望に合わせて自由に過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内服は原則、職員が管理し、服薬状態を確認している。また個々のファイルに薬剤表を綴り、職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力や性格に合わせた役割を見つけ、仲間と協力し合いながら生活できるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今季は外出自粛により機会は限定されたが、ご家族の了解のもと、車中から実家を周ったり、車中から外の景色を楽しんでいたいたりするドライブを可能な限り実施している。	今年はコロナ禍により外出機会は限定されたが、外に出る季節に応じた散歩、ドライブを家族の了解を得て実施している。個人の希望に添った突発的な外出支援にも対応し、無理のない計画、制限する事の少ない生活の実現を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に所持金額の把握を行い、ご家族の了解やご本人の管理能力に応じてお金の所持を認めている。また、買い物や受診など、必要に応じてご本人に支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族から了承を得ている場合は、ご本人より要望があれば自由に電話を掛けていただいている。掛け方が分からない方には都度職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の掲示物を季節ごとに入れ替えたり、テ開放するテラスで、外の空気や風景を感じてもらったりするなど、日々の生活の中で四季を感じて、ゆっくりと過ごせるような空間づくりに努めている。	ホール内のリビング、談話コーナー、ダイニングは幼稚な飾りつけはなく、アクセントに配慮した落ち着いた空間を作っている。十分な採光でテラスもある環境となっている。玄関は木造民家構えで、室内も木目調でホール内に温かみを感じられる。ホールは臭いもなく清潔な居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやダイニング、談話室など共用スペースを思い思いに利用できるよう声掛けを行い居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の好みの物や、思い出のある品物などを持参していただくなど、ご本人が居心地よく生活できる環境づくりに努めている。	居室はベッドを置いているが、畳・布団も応用できる。馴染みの家具、物、家族の写真、利用者の作品が飾られているプライベート空間になっている。部屋からベランダに出られるようになっており、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーで、必要箇所には手すり等を設置している。また、トイレや浴室、居室の場所が分かるようサイン表示するなど生活動作の自立を促している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100413		
法人名	社会福祉法人 福聚会		
事業所名	グループホーム 宝珠の郷【萩ユニット】		
所在地	福井市内山梨子町3-46		
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 18 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 2 年 10 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が穏やかに、そして心豊かに生活していただけるよう、職員はどんなときも、入居者様と向き合い、喜び合い、支え合い、共感しあう、「家族のようなつながり」を求め続けています。
また今年度は、入居者様の歯や口の中の健康を保っていただくため、「口腔ケア」の実践に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桜ユニットと同様

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに楽しみ助け合い皆が温かい気持ちになれる施設」を基本方針とし、毎朝の申し送り時に「理念」と併せ唱和し、実践につなげている。	桜ユニットと同様	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年明けまでは、法人が主催する月1回のお説教に加え、小学校の運動会や地域の体育大会及び文化祭に参加し、地域との交流を意識した取り組みに努めてきた。	桜ユニットと同様	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年実施されなかったが、毎年地区の体育大会に参加し、入所者様や職員が地元の学生ボランティアとふれあい競技に興じるなど、地域の人々に向けて認知症への理解を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様のご家族や地域の福祉委員などと構成する運営推進委員会において意見を交換し、サービス向上に活かしている。	桜ユニットと同様	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に包括支援センター職員に出席してもらい、困難事例に対しての助言をいただいたり、地域内の情報を伺ったりするなど協力関係を築いている。	桜ユニットと同様	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止にかかる委員会を定期的に開催しているほか、毎月末に事業所全職員により、入所者様一人ひとりのケアの方向性を話し合うなど、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	桜ユニットと同様	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止を徹底するため、上記と関連し、法人全職員を対象とする研修を年2回開催し意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	上記6.7と関連し、入所者様の権利擁護に関する理解を深めている。具体的に、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会は持てなかったが、施設長から「人の尊厳」について講義を受けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書・重要事項説明書に則り、入所者様やご家族様へ十分に説明を行っている。丁寧な対応に心掛けていることにより、納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来苑時のご家族様とのコミュニケーション、ご家族様アンケートによる声などから、改善事項を見出し対応している。	桜ユニットと同様	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回のチーフ会議、年に2回の面談時などに職員の声に耳を傾ける機会を設けるとともに、管理者や主任が積極的に声をかけるなどし意見を聞き、反映事項を増やしている。	桜ユニットと同様	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や目標管理を運用し、職員の能力や態度、頑張った成果を認めるなど、評価する環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内だけではなく、法人外研修への参加を積極的に推奨している。また、研修費用の助成に加え、介護福祉士以外の研修については、研修日を全て公務扱いとするなどの取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やオンラインを通して同業者と接する機会はありますが、勉強会や相互訪問等に発展した交流は現状のところ皆無である。今後の検討項目としたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ずご本人との面会を行い、心身の状況把握に努め、サービス提供の内容に活かしている。また、担当ケアマネとの引継ぎを十分にやり、可能な限りご本人の望む暮らしを提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはご家族様、可能であればご本人に来所してもらい、事業所の雰囲気を感じていただいたうえで要望等を伺うなど、早い段階からの関係構築を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来所時の面談により、ご本人やご家族の思いや希望を十分に伺い、より良い支援の方向性を見出している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日々の調理や掃除など、生活支援を通して、入所者様から多くの暮らしの知恵を授かるなど、支えあう関係づくりに注力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等にご家族様と、入居者様への支援の方向性を確認する機会を設けるなど、共に支えあう関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族に加え、近所馴染みの方からの面会、暑中見舞いや年賀状のやり取りなど、これまで通りの関係を維持できるよう関わっている。	桜ユニットと同様	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	両ユニットの自由な往来を可能としているほか、入所者全員が会し交流する機会を設けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の担当者やケアマネへの情報提供を丁寧に行っている。また、併設施設へ入所された場合には、職員によるご本人への面会やご家族へのフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活をする中でご利用者様と関わりを持つ時間を設け、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。また、定期的にあセスメントシートを作成し、本人の意向に基づき、ケア内容の検討を都度行っている。	桜ユニットと同様	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人に面会し、ヒヤリングを行うほか、ご家族や担当ケアマネから情報を収集するなど、生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの状態をケア記録表や申し送りノートに記録し、ケアに関わる細目な情報の把握、共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月実施するモニタリングから作成するアセスメントシートにより職員間で話し合い、意見などを反映したプランとなるよう取り組んでいる。	桜ユニットと同様	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護支援計画書を記録したり、日誌や申し送りノートに気づきを記入したり、ご本人の言葉を書き取ったりするなどして考察を加え、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の都合に応じて、定期受診や個別による買い物や散髪、季節ごとの外出行事を企画するなど、柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	衣服や日用品の購入など、できるだけ地域の衣料品店やスーパーを利用するよう心がけている。馴染みの関係を築くことにより、安心して暮らせる環境づくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続を基本としつつ、希望に応じ、近医への転院も可能としている。定期受診については、ご家族の付き添いを原則とするものの、緊急時等は職員による対応も可能である。	桜ユニットと同様	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はないが、併設の特養の看護師に相談・指示を仰ぐなど連携を密にしている。また、夜間はオンコール体制を整え緊急時に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を提供している。また、ご家族、主治医、担当看護師と連携を密にとりながら退院後の受け入れがスムーズに行えるよう努めている。退院前のカンファレンスにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約の際に、重度化した場合や終末期のケアについて口頭での説明を行っている。入院時には病棟カンファレンスに出席し、ご本人やご家族、病院関係者と話し合いのうえ方針を決定している。	桜ユニットと同様	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、配架している。また、法人全体の勉強会に参加し、緊急時の対応力向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、配架している。また、年2回全体の避難訓練を実施するほか、地区内の避難訓練に参加し、地域とのつながりを築いている。なお、非常時の備蓄品も確保している。	桜ユニットと同様	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ訪室の際には必ずノックを厳守し、ご本人より入室の許可を得るなど、プライバシーの配慮に努めている。言葉づかいに関しては職員同士が都度注意し合っている。	桜ユニットと同様	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望に応じ、活動に使用する物品等を個人用に準備している。また、日々の関わりの中でご本人の希望や想いを取り入れ、外出行事や外食行事、レク活動を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で決まり事はあるが、1人ひとりが自己選択できるように声かけや環境づくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご要望に応じ、理容室などを利用している。着替えは自身のペースに任せるなど、その日その日のご本人好みのおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	どのような食事を食べたいかを伺いながらメニューに取り入れている。また、盛り付けにも配慮し見た目でも楽しんでいただいている。また、日々ご利用者と副菜や汁物など一緒に作る時間を設けている。茶碗拭きなど後片付けも一緒に行っている。	桜ユニットと同様	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立を作成している。食事摂取量、水分飲用量を記録し、健康管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや義歯の洗浄、歯磨きを日課とし、個々に応じた口腔ケアを行っている。義歯は週に1回ポリドント洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合わせた排泄介助を行っている。また、羞恥心に配慮し、耳元での声かけなど、さりげないケアに努めている。	桜ユニットと同様	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳の提供に加え、排便困難時には食物繊維を提供し、細目な水分補給に努めている。1日2回、ホーム内にて歩行訓練や軽体操を行い、便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に6日入浴日を設け、個々に合わせて、臨機応変に対応している。入浴場面では誘導から入浴まで職員が1対1で対応し、ゆったりと落ち着いた気持ちで入浴できるよう努めている。	桜ユニットと同様	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホームでの日課は決まっているが、それぞれの生活リズムや本人の希望に合わせて自由に過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内服は原則、職員が管理し、服薬状態を確認している。また個々のファイルに薬剤表を綴り、職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力や性格に合わせた役割を見つけ、仲間と協力し合いながら生活できるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今季は外出自粛により機会は限定されたが、ご家族の了解のもと、車中から実家を周ったり、車中から外の景色を楽しんでいたいたりするドライブを可能な限り実施している。	桜ユニットと同様	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に所持金額の把握を行い、ご家族の了解やご本人の管理能力に応じてお金の所持を認めている。また、買い物や受診など、必要に応じてご本人に支払いを行っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族から了承を得ている場合は、ご本人より要望があれば自由に電話を掛けていただいている。掛け方が分からない方には都度職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の掲示物を季節ごとに入れ替えたり、テ開放するテラスで、外の空気や風景を感じてもらったりするなど、日々の生活の中で四季を感じて、ゆっくりと過ごせるような空間づくりに努めている。	桜ユニットと同様	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやダイニング、談話室など共用スペースを思い思いに利用できるよう声掛けを行い居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の好みの物や、思い出のある品物などを持参していただくなど、ご本人が居心地よく生活できる環境づくりに努めている。	桜ユニットと同様	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーで、必要箇所には手すり等を設置している。また、トイレや浴室、居室の場所が分かるようサイン表示するなど生活動作の自立を促している。		